

JPDA 11月定例理事会議事録

日 時：平成29年11月8日（水）午後1時30分～午後5時

場 所：文京シビックセンター（区民会議室） 5階 会議室 A

東京メトロ丸ノ内線・南北線「後樂園」駅前

出席者：理事24名中20名（加藤芳夫、伊藤 透、青木（入江）あずさ、井上 聡、

牛島志津子、畝野裕司、梅原 真、江藤正典、小川裕子、小川 亮、

加藤（桑）和美、小原 司、竹内清高、中越 出、永島 学、中森恭平、

信藤洋二、藤田 隆、森 孝幹、山崎 茂）

欠席届（加藤憲司、佐野暁子（文胡）、永田麻美、八木勇達、）

監事2名中2名（池田 毅、時田秀久）

議事の経過：

定款第31条（議長）により加藤理事長を議長に選出し、議長は直ちに本日理事会出席者22名を確認、定款第32条（決議）による出席者が過半数に達していることを確認し、定款第34条により議事録署名人が加藤芳夫理事長、伊藤透副理事長、池田毅監事、時田秀久監事の4氏であることを確認し、議事に入る。

（決裁事項の議案号数はゴシック。）

第1号議案 新入会員入会審査の件

本日の理事会までに入会申込み法人3社、個人5人、賛助1社があり、定款6条（会員資格の取得）並びに会員規定に基づき入会審査を行い、下記の法人3社、個人5人、賛助1社の入会を承認した。

（1）法人会員（3社）

<東日本>

1. CGS J a p a n 株式会社（推薦者＝アビッド・フレックス（株）三島一剛）
2. 株式会社日本デザインセンター（推薦者＝永田麻美）
3. P. K. G. T o k y o 合同会社（推薦者＝伊藤 透）

（2）個人会員（5人）

<東日本>

1. 河野 泰夫（こうの やすお）（推薦者＝新谷秀美）
2. 鈴木 雄一郎（すずき ゆういちろう）（推薦者＝時田秀久）

3. 桑原 正和 (くわばら まさかず) (推薦者=時田秀久)
4. 大湊 一章 (おおみなと かずあき) (推薦者=時田秀久)
5. 中村 佳愛 (なかむら かえ) (推薦者=時田秀久)

(3) 賛助会員 (1社)

1. リード エグジビション ジャパン 株式会社 (代表者=岡部 憲士)

第2号議案 再入会員審査の件

本日の理事会までに再入会申込み個人1人があり、定款6条(会員資格の取得)並びに会員規定に基づき入会審査を行い、下記の個人1人の入会を承認した

(1) 個人会員 (1人)

<東日本>

1. 小西 真由美 (一時期活動を抑えていたため退会したが、また再開したため)
[29年12月1日入会希望]

第3号議案 退会承認の件

本日の理事会までに退会届を提出した法人会員1社、個人会員8人の退会を承認した。

(1) 法人会員 (1社)

<東日本>

1. 株式会社 土屋鞆製造所 (社内諸事情により) [29年10月末退会希望]

(2) 個人会員 (8人)

<東日本>

1. 三澤 恵理子 (みさわ えりこ) (一身上の都合により)
[29年6月退会希望 6月に休会から退会の連絡があったが退会届が未提出]
2. 玉垣 聡 (たまがき さとる) (事務所解散のため)
[29年9月末退会希望]
3. 大森 幸代 (おおもり ゆきよ) (一身上の都合により)
[29年9月末退会希望]
4. 門出 希 (もんで のぞみ) (諸般の事由により)
[30年2月末退会希望]
5. 竹廣 光晴 (たけひろ みつはる) (寿製版印刷(株)を定年退職するため)
[30年1月末退会希望]
6. 金城 直人 (かねしろ なおと) (現在は活動していないため)
[29年10月末退会希望]

<西日本>

7. 藤田 昇 (ふじた のぼる) (一身上の都合により)

[29年11月末退会希望]

<中日本>

8. 林 たかし (はやし たかし) (老齢のため)

[30年2月末退会希望]

第4号議案 協会名義使用承認の件

本日理事会までに下記6件の協会名義使用、1件のJPDA賞の交付及び審査委員委嘱の依頼がありこれを承認した。

(1) 後援名義の使用依頼 (3件)

- ・「第57回 2018年ジャパンパッケージングコンペティション」への後援名義の使用、JPDA協会賞賞状の交付、及び審査委員委嘱の依頼

(審査：2018年2月2日 展示会：4月16～18日 日本印刷会館展示場 (東京)
4月23～27日 平和紙業(株) (大阪))

主催：一般社団法人 日本印刷産業連合会

- ・「コンテンツ東京2018」

(2018年4月4～6日 東京ビッグサイト)

主催：リード・エグジビション・ジャパン株式会社

※2018年よりパッケージに特化したブースを構える予定。

(会場でのJPDAパッケージデザイン大賞受賞作品の展示を検討中)

- ・「知的財産権制度との賢い付き合い方」セミナー

(2018年1月19日 グランフロント大阪北館7階 ナレッジサロン)

主催：一般財団法人 大阪デザインセンター

(2) 協力名義の使用依頼 (1件)

- ・「光と音のシンフォニー ライティング・オブジェ2017」:

(12月14日～24日 東京ビルTOKIAギャラリー・東京国際フォーラム・
有楽町マルイ・ニッポン放送など： ※一部会場は別日程)

主催：ライティング・オブジェ制作委員会

(3) 協賛名義の使用依頼 (2件)

- ・「page 2018」(テーマ：アライアンスNEXT)

(2018年2月7～9日 サンシャインシティ・コンベンションセンターTOKYO)

主催：公益社団法人日本印刷技術協会

- ・「第85回東京インターナショナル・ギフト・ショー春2018 LIFE & DESIGN」

(2018年1月31日～2月3日 東京ビッグサイト 東1～3・東6ホール)

「第85回東京インターナショナル・ギフト・ショー春2018」

(2018年2月7～9日 東京ビッグサイト 東1～8ホール、西1ホール&
アトリウム、西3・4ホール)

主催：いずれも株式会社ビジネスガイド社

第5号議案 正副理事長報告

加藤理事長、伊藤副理事長から下記の報告があった。

加藤理事長報告

- ・9/14・15 しまんとデザイン会議の事前の現地視察。四万十市長と面談。
- ・9/21 東日本トークカフェに参加。
- ・9/22 現代日本のパッケージ展（印刷博物館）の内覧会・オープニングレセプションに出席・挨拶。
- ・9/23 「俺のパッケージ展」パーティーに出席。
- ・9/29 総務・事務局打合せに出席。
- ・10/2 アスパック関連事業についての打合せに出席。
- ・10/4 JAPAN PACK（東京ビッグサイト）で講演。
- ・10/10 アーカイブ委員会に出席。
- ・10/21 アスパック国内決勝審査会に審査員として出席。
- ・10/28～31 APD台北に参加。
- ・11/5 「現代日本のパッケージ展」（印刷博物館）トークセッション「受賞作品を語る」にモデレーターとして出席。
- ・11/7 おいしい東北審査会に審査員として出席。
- ・11/10・11 しまんとデザイン会議のトークセッションに出演予定。
- ・12/14 おいしい東北パッケージデザイン展 表彰式・フォーラムに出席予定。

伊藤副理事長報告

- ・9/22 現代日本のパッケージ展の内覧会・オープニングレセプションに出席
- ・9/29 総務・事務局打合せに出席。
- ・10/20 アスパック国内決勝審査会準備に学生ボランティアと参加。
- ・10/21 アスパック国内決勝審査会に審査員として出席。
- ・10/28～31 国際フォーラムのスピーカーとしてAPD台北に参加。
⇒今回のテーマは「日本のお土産に見るパッケージの面白さ」とし、その歴史と日本全国にある10例を紹介した。

第6号議案 2018年度・顕彰者推薦候補者選定承認の件

2018年度の顕彰者推薦候補は、「パッケージデザイン功績賞」に4名・1社、「JPDA貢献賞」に1名の推薦があった。

「パッケージ功績賞」については理事及び外部審査員による審査の結果、前JPDA理事長であり、現在はJPDAの個人会員でもある株式会社ブラビスインターナショナルの笹田史仁（フミ・ササダ）氏と、前事務局長で3月に退職された山崎次郎太氏のお二人が、満場一致で選定された。お二人には後日事務局長より受諾の是非を確認する予定である。

- ・フミ・ササダ氏はコカ・コーラ、キリン、カゴメ等、大手企業のパッケージデザインを具現化しているブラビスインターナショナルの経営トップであり、JPDAの国際交流理事を担当されている時には日本と世界のパッケージデザイン界のつながりを生み出すとともに、JPDA理事長として4期8年の間、JPDA全体の活動をリードしつつ、この賞を多くの方々に贈賞する活動をされてこられた。

現在はアジアの学生のパッケージデザインに対する関心・技術を高めるべく一般社団法人アスパック協会を設立され、年1回のコンペティション実施の中心的存在としてその発展に尽されていることなどが今回顕彰の理由になっている。

- ・山崎次郎太氏は「JPDA貢献賞」にも推薦されていたが、単にJPDA事務局長としての活動に留まらず、パッケージデザインの世界にある法人と個人、また、メーカー・コンバーター・クリエイターという異なった領域に生きる人々をコーディネーターの役割として結びつけ、新しい交流、価値の発見を創出され続けてきた。また、他のデザイン協会とのコミュニケーションを密にして、デザイン界におけるパッケージデザインのポジション・価値を高める活動もされてこられた。このようなパッケージデザインの土台・環境作りに尽力されてきたこれまでの活動はむしろ「パッケージデザイン功績賞」に値すると判断される。
- ・これらの選考理由については外部審査員（JPGDA大迫氏、JIDA浅香氏）も納得されており、できれば今回はお二人に贈賞したいという意見をいただいている。

第7号議案 委員会報告

<決済事項>

○西日本（勉強会 かたらうVol.2）

勉強会の内容については前回の理事会で報告済だが、今回は中森理事より収支計算報告があり、公益会計は、収入151,500円、協会補助125,000円、支出合計249,154円、収支差額+27,346円が承認された。

また、管理会計についても、収入合計84,000円、協会補助0円、支出合計84,000円、

収支差額±0円が承認された。

開催日時：平成29年9月8日(金) ワークショップ：14:00～、講演：17:00～
交流会 18:30～21:00

会 場：勉強会：@Jimukinoueda bldg. B1F レンタルスペース
交流会：@5FIVE CAFÉ&DINER

講 師：大西景子氏（貼箱専門店「BOX & NEEDLE」代表）

出席者数：33名（内訳：会員 30名 / 一般 3名）

○東日本(Talk Café)

竹内理事より、東日本委員会Talk Café 2017「若手デザイナーが語りつくすデザインの現在と未来」について、活動報告と収支計算報告(公益会計)があり、収入210,000円、協会補助99,500円、支出合計252,693円、収支差額+57,807円を承認した。

開催日時：平成29年9月21日(木) 18:30～20:30

会 場：3331 Arts Chiyoda 1階 (千代田区外神田6-11-4)

パネラー：池端慶氏（ポーラデザイン研究室）、川上恵莉子氏（ドラフト）、
末藤智菜氏（GKグラフィックス）、長谷川哲士氏（(株) ミンナ）

出席者数：87名（会員 72名 / 一般 5名 / 学生7名）

今回は次世代のパッケージ業界を担う若手や中堅層をターゲットに、新進気鋭の若手デザイナー4名を招き、「スキル」、「モチベーション」、「ビジョン」の3つのテーマを軸に、デザインの現在と未来を語ってもらうトークショーを開催した。

彼らは、期待されていること・やるべきこと・やりたいことが入り混じり、いろいろな悩みや課題を抱える世代であると思うが、そのような環境下で未来を切り開くために、どんなことに興味を持ち、何を考えて」デザインしているのかを各人各様に本心を披瀝していただいた。参加者もほぼ狙い通りの若い層が多く満席の状態、大変興味深いトークショーであった。

伊藤副理事長から、「ともすれば各委員会はセミナー等を開催することに傾注してしまい、後に残すということがあまりなされていない。これからは考えられる費用も予算化して、終了後も見たり、聞いたりできるようなものを残してはどうか」という提言があった。これについては、調査研究委員会では記録係を決めて、全てではないがwebサイトにアップしていること等、肯定的な意見も多かったが、開催するイベントの趣旨・目的により必要性が異なること、出演者の了解や露出する媒体の選定を慎重に行う必要があることなどから、ケースバイケースのところもあり、今後の検討課題となった。

○中日本（富山デザインフェア2017・JPDA Talk café 2017 in TOYAMA）

畝野理事より、中日本北陸で開催された「富山デザインフェア2017」及び「JPDAトークカフェ2017 in TOYAMA」の2件についての活動報告と収支決算報告(いずれも公益会計)

があった。

「富山デザインフェア2017」は収入100,000円、協会補助30,000円、支出合計123,666円、収支差額+6,334円が承認された。

開催日時：平成29年9月29日(金)～10月1日(日)

会場：富山市民プラザ、デザインサロン富山

入場者数：1,892人(29日：440人、30日：731人、1日：721人)

「富山デザインフェア」は富山市が秋に開催するデザインイベントで、例年グラフィックからパッケージまで幅広いジャンルの作品が展示される。

パッケージでは日本パッケージデザイン大賞展に入賞した全作品と合わせて、県内外の学生を対象に「富山の〇〇を包む」というテーマで公募を行った作品(応募総数：121点)も展示された。この応募作品はコンペティションでもあり、今年は畝野理事が審査員として審査に参加した。

デザインフェアの期間中、デザインセミナー、デザインスクールも開催され、「富山の水で市民を幸せにする」というテーマのデザインスクールには畝野理事を含めた2名のJPDA会員が講師として招かれた。聴講者も含めて37名の参加者には高校生もいて、かれらの新鮮なアイデアは大変興味深いものであった。

「JPDA Talk café 2017 in TOYAMA」は収入9,000円、協会補助55,000円、支出合計91,495円、収支差額-27,495円が承認された。

開催日時：平成29年9月30日(土) 10:30～12:00

会場：富山市民プラザ 2階 ふれんどう

パネリスト：戸田祐希利(「暮らすひとクラスところ」代表)

参加者数：8名(会員/5名、学生/3名)

平成25年から中日本事業としてスタートしたJPDA Talk caféは今回が5回目となるが、パネリストの戸田氏にデザイナーが地域と関わり地場産業を活性化していく役割などを話していただいた。

○調査研究

加藤(桑)理事より、トレンド研究会「暮らしになじむロハコのパッケージデザイン」について、活動報告と収支計算報告(公益会計)があり、収入361,000円、協会補助0円、支出合計259,946円、収支差額+101,054円を承認した。

開催日時：平成29年10月25日(水) 16:00～20:15

開催場所：東洋インキ株式会社 29F 大会議室(京橋エドグラン)

講師：アスクール(株)：中里裕治氏、花王(株)：中井理恵氏、丸山双葉氏
キリンビバレッジ(株)：水上寛子氏、寺島愛子氏、遠藤 楓氏

パネルディスカッション：講師+宮城愛彦/ファシリテーター：加藤真弘

参加者数：116名（会員/97名 内法人65名/個人32名、一般/17名 内法人15名/
個人 2名 /学生2名）

今年3月に実施した「法人会員向けアンケート集計結果」で要望が多かったのが「トレンド研究会」だったので、今回は多方面で注目をあびている通販サイト「ロハコ」の「暮らしになじむパッケージデザイン」にスポットを当てた研究会を開催した。

初めにアスクルの中里氏による「BtoCに向けた生活者起点のコンシューマーブランド」についてのお話をいただいた後、花王「リセッシュ」のデザイン担当者中井氏、丸山氏から「インテリアとしての心地よさ」を意識した、質感、モチーフにこだわったデザイン制作について、次にキリンビバレッジ「moogy」担当者である水上氏、寺島氏、遠藤氏からは、「自分たちがほしいものを作る」という発想から、中身の開発から手書きにこだわった多種類のパッケージデザイン開発、また、SNSの活用等のコミュニケーションについてのお話を伺った。

3社からの講演の後、最後に全講演者に調査研究委員宮城氏、ファシリテーター加藤氏を加えて、店頭デザインとの目的の違い、デザインの取り組み方、ECでの可能などをテーマにしたパネルディスカッションを行った。

終了後の交流会を含めて長時間に及ぶ研究会だったが、内容についてのアンケートでは91%以上の参加者から有意義だったとの評価をいただいた。また、JPDA会員である東洋インキ様のご厚意で使用できることになった会場も素晴らしく、あっという間の4時間であった。

○国際交流

森理事より、「海外視察準備渡航」と「APD台北」2件についての活動報告と収支決算報告（いずれも公益会計）があった。

「海外視察準備渡航」については、収入 0円、協会補助 680,000円、支出合計679,284円、収支差額 +716円を承認した。（費用の中の諸謝金は現地通訳の費用）

前回はアメリカのサンフランシスコとポートランドだったが、今回はアジアのデザインハブを標榜し、世界で最も多様性がある社会と言われるシンガポールと爆発的な成長を続けるインドネシアを考えている。

次に「APD台北」については収入 1,437,300円、協会補助 0円、支出合計1,432,738円、収支差額 +4,562円を承認した。

開催日：10月28日（土）：am/東京⇒台北、pm/作品展示・他地域の作品見学、代表者会議

10月29日（日）：終日APD、夜は参加5カ国の交流会

10月30日（月）：デザイン視察

開催場所：（28・29日）台湾台北市松山文創園區

（30日）台北のデザイン会社4社を訪問

参加者：30名（日本のみ）

今回は主催国台湾（会長：オーウェン氏）を初め韓国、上海、日本4ヶ国のパッケージデザイン協会（PDA）の他、タイPDAのソムチャナ会長も出席した。また、今回よりAPD貢献賞を新たに設け、いままでAPDの発展に貢献した方を各国から一人選び、顕彰することとしている。（今回日本はJPDAの元理事長金子修也氏を顕彰）

APDは各国のプレゼンが続き、ほぼ終日タイトなスケジュールだったが、夜の交流会は各国の参加者が入り交じり、楽しく交流を深めることができた。

次回は代表者会議で2020年に日本（東京）で開催されることを確認した。

<報告事項>

○アスパック関連

渡邊事務局長から12月2日（土）～7日（木）のアスパックウィークの全容とこれに関わる3つのJPDA委員会（国内交流：12/3 フォーラム・表彰式・レセプション、教育：12/4・5 教育研修・印刷博物館見学・原研哉氏講演会、展覧会：12/3～5 展覧会場準備、入賞者WS、展覧会オープニング）の活動概要と進捗状況についての報告があった。

○広報

永島理事より2018年1月発刊予定の広報誌「PACKAGE DESIGN 27号」のページ立てについて案内があった。

27号の内容は、しまんとデザイン会議、鹿目氏の追悼ページ、APD台北と視察ツアーの後、気になる会社インタビューとして甲子園球場のグラウンド整備を行っている「阪神園芸」という造園会社を取り上げる予定である。

○インターネット

中越理事から、JPDAサイトの更新状況とインターネット委員会の担当委員会分担について説明があった。

サイトへのイベント案内などは最終情報の確定に時間がかかる場合、早い段階でその時点での確定情報（いつ、どこで、何がある）を公開し、必要に応じて情報追加、更新等段階的な情報発信をお勧めしたいとのこと。

また、委員会分担については、その時の各委員会の活動内容に合わせ、必要に応じて複数人で対応できる体制をとるようにするとのこと。

○展覧会

中森理事より、2018年の第2回展覧会企画案についての概略案内があった。

（2016年～2020年の間、3回の企画展を開催する計画だが、今回はその2回目となる。）
テーマ（仮）は「感じるパッケージ」デザイン展とし、視（みる）、触（さわる）、聴（きく）、味（あじわう）、嗅（かぐ）という五感に伝わるパッケージを考える予定。

西の会場は京都の「しまだいギャラリー」を2018年10月4日～10月11日で予約済みであり、

東の会場は前回同様、「渋谷ヒカリエ」を2018年10月22日～11月12日の間（3候補）で申請中である。

出品者は100名程度とし、さらに詰めた詳細は1月の理事会に提案するとともに、今期中（2018年3月まで）に応募要項を作成したいとのこと。

前回同様、図録等の出版は考えずに会場装飾に費用をかけていく予定。

○デザイン保護

小川理事より、HPへの委員会レポート公開報告（Vol.95、Vol.96）と9月27日に開催されたJPDA第3回デザイン保護委員会と、12月6日に開催された今年度第1回目のD-8デザイン保護研究会の内容報告があった。（詳細は議案書参照）

次回のJPDAデザイン保護セミナーは2018年2月16日の予定で進める。

○コンペティション

小原理事より、前回の理事会で指摘のあった①審査員選定、②カテゴリー改善についてコンペティション委員会で議論している内容の中間報告があった。

① 審査員選定については、前回44名の審査員数は若干減らす方向で検討したい。但し、審査方式では各カテゴリーの上位3作品には3ポイントの加重ポイントを設定する等、審査員お薦めの作品が残りやすく、特長ある作品選定ができるような対応策を考えていきたい。

② カテゴリー改善では、前回から導入した5カテゴリーの販路分けについては一定の評価をいただきと考え継続していくとともに、応募作品が少ない医薬品カテゴリーは廃止し、以前のような「家庭用品・一般雑貨・医薬品」にくくり直す。

一方、指摘のあった通販をどう扱うかについては継続検討していきたい。

スケジュール詳細は議案書のとおりだが、2018年3月末：審査員の決定、4月末：応募要項発送、5月上旬エントリーを開始し、審査会は8月27日・29日、贈賞式は2019年1月下旬の予定。

○アーカイブ

青木（入江）理事より、研究記録活動として「声のアーカイブ」（パッケージデザイナーのデザインに対する思い、制作にまつわるエピソード、残したい技術や知識等をデザイナー本人の声・映像とテキストで記録・保存し、JPDAの資産とする活動）を今後2ヶ月に1人のペースで継続実施していく予定との報告があった。

すでに2017年7月8日にVol.1として鹿目尚志氏の声のアーカイブを作成している。

合わせて9月・10月に開催されたD-8のJDM（ジャパンデザインミュージアム設立研究委員会）活動についての報告もあった。

○西日本

井上理事から、10日・11日のしまんとデザイン会議について、直近の情報として参加者

118名、オプショナルツアーの申し込み90名との報告があった。デザイン会議、交流会には地元からも50名以上の参加者を見込んでいるとのこと。

○出版

山崎理事より、今年からスタートしたINDEXのwebからの応募状況についての中間報告があった。

webからの応募は今回が初めてでもあり、OSのバージョンの違いからダウンロードできない等の問題が発生しているが、全体としてはうまく行っていると考えている。

11月2日時点では、デザインページの応募が348ページ、技術ページの応募が2ページの合計350ページであり、昨年よりも42ページほど不足しているが、前年掲載したところには六耀社が個別にアプローチしており、11/10までに検討いただくことになっているのでその結果待ちの状態である。

1点特記できることは、新規や以前やめていたところからの応募が28件あったことで、今後期待がもてると考えている。

別途紹介された2018年版の表紙デザインは提案通り了解された。

第8号議案 事務局報告

渡邊事務局長から下記の報告があった。

- ・平成30年度事業予算及び平成29年度事業収支決算の作成・承認に関しての以下のスケジュールが案内された。

- ① 30年度事業計画及び収支予算案作成依頼 : 平成29年12月1日(金)
- ② 30年度事業計画及び収支予算案の提出 : 平成30年1月17日(水)
(調整)
- ③ 30年度事業計画及び収支予算最終案の提出 : 2月21日(水)
- ④ 30年3月定例理事会で30年度事業計画・予算決定 : 3月14日(水)
- ⑤ 内閣府への30年度事業計画・予算案の提出 : 3月30日(金)までに
- ⑥ 29年度事業・収支決算の監査 : 4月10日(火)・11日(水)
- ⑦ 30年4月臨時理事会で事業・収支決算を決定 : 4月18日(水)

- ・小川裕子理事から以下の提案があり、出席理事間で意見交換があった。

- ① 新役員が揃った最初の理事会で現在の委員会活動の整理を議論してはいかがか。
- ② 今の理事会は議案書の読み合わせの時間が長く、クリエイティブな議論があまりできていない。それを改善する手段はないのだろうか。例えば議案書の作成を早めて、出席する理事が事前に議案書に目を通すことができるようにするなど。

この②については、渡邊事務局長から、現状では議案書に載せる報告書等の集まりが遅く、事務局として対応することはできないというコメントが、また、加藤理事長からは、理事には理事会での報告義務があることから、単にそれを割愛することはできないとい

うコメントがあった。

また、小川理事から、代表役員の活動がかなり煩雑で多忙になってきているので、伊藤副理事長からアドバイスがあった専務理事を新たに設置することも検討してよいのではという意見が加えられた。

小川理事の提案に対しては、伊藤副理事長、梅原理事から賛同の声が上がり、とくに梅原理事からは、「現在は出版委員になっているが、小川理事と同じようなことを感じていた。協会のシンボリックな年度テーマ（例えば、日本のお土産）を決めて、全ての委員会がそのテーマを意識した活動ができれば、協会全体としてのクリエイティビティを強く発信できるのではないか。」というコメントがあった。

- ・ 会員名簿の作成・会員への送付時期に関して、2018年度分については従来通り12月完成、年末までに各会員に送付というスケジュールを踏襲するが、会員名簿には役員名が記載されることから、2019年度以降は新役員が決定する総会後の6月に作成・送付するというスケジュール変更の検討を始める。
- ・ 2018年1月31日（水）に開催される予定の「1月定例理事会」及び「2018年東日本新年デザイン交換会」について、以下の概略スケジュールの案内があった。

会場	部屋予約時間	催事	催事開催時間
文京シビックセンター 5階 会議室 A	13:00～17:00	定例理事会	13:30～17:00
日比谷 レストラン 「アラスカ」	18:00～21:00 受付 17:30～	講演 (文楽を検討中)	18:00～18:45
		懇親会	19:00～21:00

第9号議案 次回理事会開催スケジュール

日時：平成30年1月31日（水）午後1時30分～5時00分

場所：文京シビックセンター(区民会議室) 5階 会議室 A

東京メトロ丸の内線・南北線「後樂園」駅前

(以下 余 白)